



報道関係各位



公益社団法人企業情報化協会

2026年2月12日
公益社団法人企業情報化協会

= NEWS RELEASE =

2025年度IT賞「Super SE 100人衆（優秀個人表彰）」 第12期 7名の受賞が決定

公益社団法人企業情報化協会（通称：IT協会）では、2025年度（第43回）IT賞において、IT最優秀賞、IT優秀賞を受賞された企業の中から、特に顕著な活躍・貢献をしたと思われる個人7名を選出し、このほど第12期の「Super SE100人衆」として2026年1月29日（木）に開催した2025年度IT賞表彰式典内で、表彰楯の授与を行いました。選出された7名は以下の通りです。

会社名	氏名	所属/役職
野村證券株式会社	Alex Murray	IT インフラストラクチャー部 エグゼクティブディレクター
株式会社ミスミグループ本社	力田 章	本社執行役員 Enterprise Tech プラットフォーム・ハブ代表役員
関西電力株式会社	横山 梨一	IT 戦略室 業務改革推進グループ
ニッセイ情報テクノロジー株式会社	影山 祐気	基盤ソリューション事業部 インフラ企画ブロック スペシャリスト
株式会社 博報堂DYコーポレートイニシアティブ	松井 一哲	DX推進室企画推進部 マネジメントプランニングディレクター
メットライフ生命保険株式会社	Ponnuganapathy Sundaraganapathy	プロダクト・開発エンジニアリング、 ディレクター
MS&ADインターリスク総研 株式会社	井上 史也	データアナリティクス部 上席研究員

※順不同・敬称略

◆Super SE100 人衆とは

- IT 最優秀賞、優秀賞を受賞した企業からの人材候補者の推薦をベースに選定。人材候補は自社社員に限らず IT 推進のパートナーからも選出します。ただし、事業や企業の経営者の地位・役割ではなく、IT 関連の実務家として卓越している人材を推薦するという視点から選定しました。
- Super SE 選出には毎年 5 名～10 名をめどに行い、対象者の数を増やしていくことを目指します。なお、ある程度の蓄積が得られたら、IT 協会において「IT 上質人材像」の具体化のための研究に結び付けていきます。
- また、受賞者の推薦理由を IT 活動領域とタイプ別のマトリックス（推薦シート）の上にプロットし、どのような行動様式や思考様式を持った人材がどのような業績をあげるかという関係性を分析します。これによって、現実的かつ経験的に辿ることができる卓越人材のスキル特性を描写することを最終目標とします。

◆Super SE100 人衆選考の視点



- 1) ビジネスやマネジメントに関する独自の視点やアイデアの発揮
- 2) 企業価値、商品価値向上に資する IT 活用アイデアの提供と具現化
- 3) 顧客もしくは自社における新たなビジネス創出への関与と貢献
- 4) ユーザーの業務に対する本質的な理解
- 5) 安全・安心・コンプライアンスの遵守への貢献
- 6) プロジェクトマネジメントスキルおよびリーダーシップ
- 7) IT の動向や活用に関する理論・技術への見識と適用

※人材像を理想型として描く時には往々にして期待される全ての特性や能力を備えた「スーパーマン」を求めるような議論になりがちであるが、ここでは上に述べた七つの視点の全てを兼ね備えた「幻の人材」を探し求めるのではなく、七つの視点（七芸）の中の一芸・二芸・三芸に秀でた実在する人材を探し、そこから理想型としての理想人材を想定することを考えました。

◆IT 賞とは

IT 賞は、わが国の産業界ならびに行政機関などの業務における事業創造、効果的ビジネスモデルの構築・促進、生産性向上等、“IT を高度に活用したビジネス革新”に顕著な努力を払い成果を挙げたと認めうる企業、団体、機関および個人に対して、公益社団法人企業情報化協会が授与するものです。

このたび、2025 年度 IT 賞審査委員会（委員長：萩野 達也 慶應義塾大学 名誉教授）において、厳正な審議のもと、40 件の受賞が決定しました。

詳細はこちら

<https://jiit.or.jp/awards/it/>

◆IT 賞表彰式典・受賞記念講演（IT 戦略総合大会）について

名称 : 「第 41 回 IT 戦略総合大会（ITMC2026）」
2025 年度 IT 賞表彰式典・受賞記念講演会
日程 : 2026 年 1 月 29 日（木）・30 日（金）（IT 賞表彰式典は 1 月 29 日に開催）
主催 : 公益社団法人企業情報化協会（通称：IT 協会）
会場 : ザ・プリンス パークタワー東京（オンライン/オフラインによるハイブリッド形式）



◆公益社団法人企業情報化協会（IT 協会）について

名称 : 公益社団法人企業情報化協会（通称：IT 協会）
会長 : 山内 雅喜（ヤマトホールディングス株式会社参与）
設立 : 1981 年 7 月 16 日
会員数 : 約 236 社
所在地 : 〒105-0011 東京都港区芝公園 3-1-22 日本能率協会ビル 3 階
電話 : 03-3434-6677
URL : <https://jiit.or.jp/>



2025 年度 IT 賞「Super SE 100 人衆」受賞者と選考理由

受賞者名(敬称略)	会社名
Alex Murray	野村證券株式会社
<p><プロジェクト内容および役割></p> <p>受賞テーマ「IT のグローバルオペレーティングモデルへの取り組み～創立 100 年企業 Nomura IT のグローバル化と生産性革新への挑戦～」のファンクショナルオーナーとして、本プロジェクトを立ち上げ期より推進</p> <p><実績と役割></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当社に入社する前は Japan Infra Head（インフラ全般の責任者）を務めており、日本のインフラ領域に精通。日本在住歴も長く、日本と海外の文化差や多様性に対して高い感度を持っており、現在も DEI に関する社内活動を積極的にリードしている。 ・入社後はすぐにインフラストラクチャー基盤チームのグローバル Co-Lead に就任し、本プロジェクトにおけるシステム環境統合プロジェクトにも深く関与した。 ・Global One Team を実現すべく、日本と海外のインフラストラクチャー組織を同時に再編成した際は、マトリクスマネジメントモデル導入の主要メンバーとして中心的な役割を果たしており、マトリクスマネジメントを実践できる人材である。 ・また、本モデルの普及及び定着を主体的に推進した。これにより、組織が一体化するだけでなく One Team としてのカルチャーも醸成されることで、日本と海外の橋渡し、融合に大きく寄与した。 ・さらに、グローバルリードでありながら日本に常駐しているため、日本のメンバーにとっても接しやすく、橋渡し役として信頼されている。 ・今後日本企業の IT 組織が抱えている課題を解消するうえで一つの指標となるであろう組織モデルの構築に顕著な貢献を行った人材である。 	
カ田 章	株式会社ミスミグループ本社
<p>IT 賞最優秀賞を受賞した当社の新サービス D-JIT（ディージット）と MISUMI fflow（フロー）は、従来手間やムダが多かった生産間接材調達を IT によって効率化したものです。当社取り扱い商品の受発注（flow は機能の一部）は、2024 年 4 月に国内で本格稼働した新基幹システム NEWTON（ニュートン）で行われており、事業側とタグを組んで、システム側のプロジェクト推進を担ったのがカ田です。</p> <p>当社はものづくり産業の間接材調達プロセス革新を志向する事業・サービス提供を行っていますが、近年の急速な業績拡大に対応するため、旧来の基幹システムからの刷新は不可欠と判断し、4 か年かけて開発を行いました。</p> <p>NEWTON は最新のマルチクラウド技術の導入や、受発注システムのマイクロサービス化によって、外部環境変化に即応できる柔軟性を備えています。刷新に当たっては、当社の強み・弱みを再認識し、活用すべき機能・データの取舍選択を徹底的に行いました。事業側のビジネスモデル変化に即応できるように基幹システムも柔軟な設計にしていますが、機能追加は本当に必要なのか議論を重ね、ブラックボックス化せずにアップデートできるような仕様になっています。</p> <p>NEWTON は日本以外に、台湾、タイ、韓国、欧州で導入が完了し、今年度米国・メキシコにも展開しました。顧客にとって、D-JIT が実現した大量注文や、納期に応じて値引きするサービスの他、多くの便利な機能が即時見積もり、納期提示として実現し、顧客への提供価値を拡大しています。当社業績においても、成長戦略「デジタルモデルシフト」を下支えする欠かせない基幹システムとなっています。</p>	

横山 梨一**関西電力株式会社**

関西電力では全社をあげて生成 AI をフル活用しており、2025 年 6 月には、OpenAI 社との戦略的連携を発表している。この連携にあたり、横山氏はプロジェクトの担当者として、契約・広報活動を含む社内外調整を推進し、ChatGPT Enterprise の導入によって社内での生成 AI ユースケースの創出・展開を加速した。

また、ChatGPT Enterprise の全社導入の前段階として、一部社員への仮導入を実施した際、カスタム GPT に過去の社長の膨大な発言記録を読み込ませ、「AI 社長」を生成する検証をいち早く行い、カスタム GPT の価値と可能性を明確に示すことで火付け役となり、スピーディーな全社展開へとつながった。また、投資案件を評価する会議で活用できるカスタム GPT として、付議資料を AI に読み込ませ、定量・定性の両面からリスクを分析する「投資評価 AI」を開発。開発に際しては投資評価業務の課題に基づいて AI の支援設計を行っている。このような意思決定の迅速化と精度向上を目指す取組を現在検証中である。

さらに、DX に関する社外広報活動にも積極的に取り組み、本 IT 賞をはじめとする外部評価の獲得により、従業員の意識向上と組織全体の DX 推進を加速。生成 AI 時代における企業変革の「型を創る」人材として評価される。

影山 祐気**ニッセイ情報テクノロジー株式会社**

～ クラウド基盤と外部認証サービス (IDaaS) を活用した、顧客接点革新大規模プロジェクトを完遂 ～

【プロジェクトの特徴と役割】

27 領域・24 社が関与する業界最大級の複雑な体制のもと、従来の枠を超えた新しい顧客体験の創出に挑戦する、極めて革新的な取り組みであり、多領域・多関係者が関与する本プロジェクトでは、全体統制と領域間の整合性が成功の鍵となりました。

影山職員は、ビジネスと IT とベンダーをつなぐ横断 PMO のリーダーとして立ち上げ段階から参画し、IT 部門内外の調整をリード。

プロジェクト全体の安定的な推進に大きく貢献し、顧客接点の高度化を目指す「顧客接点革新プロジェクト」を成功裏に完遂しました。

【主な成果】

- 複雑性の高いプロジェクトを安定的に遂行
ビジネス部門・IT 部門・IDaaS ベンダーなど多様なステークホルダーと密に連携し、円滑な進行を実現。
- クラウド移行・認証連携の PoC を主導
技術的課題やリスクを事前に洗い出し、対応方針を明確化。これにより、見積精度向上とリスク低減を達成。
- 技術と業務の橋渡し役として専門性を発揮
認証技術の知見をビジネス要件に適用し、迅速な意思決定を支援。
複雑な要件調整や外部連携の障壁を突破。
- 高品質を保証する仕組みを定着
過去教訓活かしおよびリスクを予見した品質チェックを徹底し、本番トラブルゼロを達成。
今後の新サービス展開を支える強固な基盤を構築。

影山職員は、高い専門性・マネジメント力・技術的先見性・強い推進力を兼ね備えた、次世代のプロジェクトリーダーとして極めて有望な人材です。

松井 一哲	株式会社博報堂 D Yコーポレートイニシアティブ
<p>■ 1 : 「AI メンタリング」を通じた経営層の意思決定支援 博報堂 D Yグループ「AI メンタリング」制度にて、社長の AI メンターを担当。 リテラシー向上に留まらず、グループ経営戦略における AI 活用の方向性を技術的・実務的な視点から伴走・支援した。</p> <p>■ 2 : 組織変革のリードと圧倒的な成果創出 経営の視座を実務に還元し、本社系領域の DX を推進。 全社員の数%分の労働力創出、AI 利用率の向上、AI 勉強会参加率 148%（延べ人数比）を達成し、数千万円のコスト削減を実現するなど、KPI を大幅に過達させた。</p> <p>■ 3 : AI 業務プロセス構築のスペシャリスト ユーザー業務への本質的な理解に基づき、役員会議での AI ニュース発信や、海外プレゼン用アバター生成などの先端企画を具現化。最適な AI 業務プロセスを構築する第一人者として、グループ全体への知見共有（講師登壇等）にも尽力している。</p>	
Ponnuganapathy Sundaraganapathy	メットライフ生命保険株式会社
<p>ポヌガナパティは、メットライフ生命の主要な販売プラットフォームにおけるリードアーキテクト兼開発者として、販売代理店部門およびその業務を支える基盤の設計・開発を主導しました。</p> <p>同プラットフォームは、代理店やお客さまのニーズに応えるため、継続的な機能強化と設計改善が求められる重要なシステムです。技術的な複雑性を深く理解し、最適なソリューションを提供することで、業務効率化と顧客体験の向上に大きく貢献しました。</p> <p>さらに、日本語での高いコミュニケーション能力と、チームを牽引するリーダーシップにより、Agile Delivery Model の取り組みを成功に導きました。これらの成果は、当社のデジタル変革を加速させ、ビジネス成長に寄与しています。ポヌガナパティの技術力と戦略的な視点は、当社の最近の成功に不可欠であり、その貢献は広く称賛されるべきものと思料し推薦いたします。</p>	
井上 史也	MS&AD インターリスク総研株式会社
<p>損害割合カリキュレータは、自治体向けに提供する被害認定調査の基準となる調査書をタブレットで入力できるようにデジタル化したプロダクトです。デジタル化により調査時間を半分以下に短縮できる一方で、発災時に誰でも迷わず操作できる UI 設計、電波が不安定な環境でのオフライン動作、被災者の個人情報漏洩を防ぐ厳格なセキュリティ対策など、本アプリならではの高い要求がありました。井上氏はこれらの課題に対して、単に仕様を満たすだけでなく現場での実務性を最優先に開発ベンダーと綿密に議論し、自ら繰り返しテストを行うことでプロダクトを実用レベルに引き上げることに大きく貢献しました。これらの貢献により、今回の IT 優秀賞受賞につながったと考えています。また、この妥協のない開発方針の結果、アプリのデータ入力方法が特許として認められ、損害割合カリキュレータの独自性と競争優位性の向上につながっています。</p> <p>当社が自治体向けに提供する被害認定調査 DX パッケージにおいて、損害割合カリキュレータは中核的なプロダクトの一つです。もう一つのプロダクトである調査量エスティメータと組み合わせることで、被災棟数の迅速な推定と確実な被害判定を両立し、被災地の早期復旧・支援に貢献しています。井上氏はとりわけ、発災後最短 10 分で住家の被災棟数を推定する手法の開発や、サービスローンチに向けた技術的・運用的調整を一貫してリードしてきました。</p>	

井上氏の貢献がなければ、被害認定調査 DX パッケージは現在の形で実現し得なかったと確信しており、ここに自信を持って推薦いたします。

以上

本件に関するお問合せ

公益社団法人企業情報化協会(IT 協会) IT 賞事務局

E-MAIL : info@jiit.or.jp

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-1-22 日本能率協会ビル 3 階

TEL : 03-3434-6677 FAX : 03-3459-1704